

(電子メール施行)
農技第1297号
令和2年10月28日

関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

令和2年度病虫害発生予報第6号を發表します。

令和2年度病虫害発生予報 第6号

向こう1か月の病虫害発生予想

作物名	病虫害名	発生予想	発生現況
トマト	アブラムシ類	やや少	少
	ハスモンヨトウ	やや少	少
	コナジラミ類	やや多	やや多
ハクサイ	黒斑病	やや少	少
	白斑病	やや少	少
	べと病	やや少	少
	軟腐病	やや少	少
	アブラムシ類	やや少	少
冬キャベツ	黒腐病	やや少	少
	菌核病	平年並	やや少
ネギ	さび病	やや少	少
	黒斑病	やや多	やや多
	べと病	やや少	少
冬レタス	菌核病	やや少	少
	灰色かび病	やや少	少
	腐敗病	平年並	やや少
	ビッグベイン病	平年並	少
イチゴ	灰色かび病	やや少	少
	うどんこ病	やや少	少
	アブラムシ類	やや多	やや多
	ハダニ類	平年並	やや少
	ハスモンヨトウ	やや多	やや多

* 気象の概況

近畿地方 1か月予報

(10月24日から11月23日までの天候見通し)

令和2年10月22日

大阪管区气象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

近畿日本海側では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

<予報の対象期間>

- 1か月 : 10月24日(土)～11月23日(月)
- 1週目 : 10月24日(土)～10月30日(金)
- 2週目 : 10月31日(土)～11月 6日(金)
- 3～4週目 : 11月 7日(土)～11月20日(金)

* 発生概況及び防除対策上の留意点

トマト

1 【アブラムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
(2) 予報の根拠

ア 10月下旬の予察圃場、10月上旬の現地調査ともに発生は認められていない。
イ 今後の1か月予報によると、気温は^{ほじょう}平年より高いと予想されており、施設内での増殖に伴い発生が認められるようになると考えられる。

2 【ハスモンヨトウ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
(2) 予報の根拠

ア 10月下旬の予察圃場では幼虫の発生は確認されていないが、県内3カ所に設置されたフェロモントラップでは成虫の誘殺は平年並である。
イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、今後しばらくは成虫が施設内へ飛び込む可能性があり幼虫が発生するおそれがある。

3 【コナジラミ類】

- (1) 予報の内容 発生量：**やや多**
(2) 予報の根拠

ア 10月下旬の予察圃場では、タバココナジラミの発生が認められており、寄生複葉率は53.3%(平年値15.3%)、虫数は複葉あたり1.0頭(同0.6頭)と、やや多い発生であった。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、増殖に好適な条件であることから、やや多い発生が続くと考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 施設の開口部からの成虫の侵入を防止する。防虫ネットは0.4mm以下の目合いのものが侵入防止効果が高い。

イ 生育に応じ葉かきを実施して幼虫を除去する。除去した葉はビニール袋等に密閉し殺虫する。

ウ 薬剤散布にあたっては、薬液が葉裏に十分かかるようにして散布ムラが生じないようにする。

エ 防除薬剤は、病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。

病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）
<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

ハクサイ

1 【黒斑病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の予察圃場、現地調査とも発病は確認されていない。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並～少ないと予想されており、本病の発生が認められるようになると考えられる。

2 【白斑病】

(1) 予報の内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の予察圃場、現地調査とも発病は確認されていない。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並～少ないと予想されており、本病の発生が認められるようになると考えられる。

3 【べと病】

(1) 予報の内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の予察圃場、現地調査とも発病は確認されていない。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並～少ないと予想されており、本病の発生が認められるようになると考えられる。

4 【軟腐病】

(1) 予報の内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の予察圃場、現地調査とも発病は確認されていない。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並～少ないと予想されており、本病の発生が認められるようになると考えられる。

5 【アブラムシ類】

(1) 予報の内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の予察圃場、現地調査とも発生は確認されていないが、結球後のハクサイ内部は本種に好適な環境であるため、今後の発生が懸念される。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並～少ないと予想されており、増殖に伴い発生が認められるようになる可能性がある。

冬キャベツ

1 【黒腐病】

(1) 予報の内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 10月下旬の現地圃場、10月上旬の現地調査ともに発病は確認されていない。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並～少ないと予想されており、本病の発生が認められるようになると考えられる。

2 【菌核病】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 10月下旬の現地圃場では発病は確認されていないが、9月下旬の現地調査では一部の圃場で発生が認められている。

- イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並～少ないと予想されており、本病は平年並に発生することが考えられる。

ネギ

1 【さび病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 10月下旬の予察圃場では発病は確認されていない。
- イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並～少ないと予想されており、本病の発生が認められるようになると考えられる。

2 【黒斑病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
- (2) 予報の根拠
- ア 10月下旬の予察圃場では発病株率57.7%(平年値22.3%)とやや多い発生が確認され、発病度は20.0(同8.4)であった。
- イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並～少ないと予想されており、本病はやや多い発生が続くと考えられる。
- (3) 防除上の留意点
- ア 本病は多湿条件で発生しやすいので、圃場排水、風通しを良くする。
- イ 肥料不足や過多は発生を助長するので、適正な肥培管理を行う。
- ウ 被害葉、株などは圃場外へ持ち出し、焼却処分する。
- エ 発生が認められた時は、初期から定期的な薬剤散布を実施する。散布にあたっては必ず展着剤を加用するとともに、生育に合わせて十分な量をていねいに散布する。
- オ 薬剤防除を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守る。また、同系統の薬剤の連用は避ける。
- 病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）
<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

3 【べと病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 10月下旬の予察圃場では発病は確認されていない。
- イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並～少ないと予想されており、本病の発生が認められるようになると考えられる。

冬レタス

1 【菌核病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 10月下旬の予察圃場、10月上旬の現地調査ともに発病は確認されていない。
- イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並～少ないと予想されており、本病の発生が認められるようになると考えられる。

2 【灰色かび病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 10月下旬の予察圃場、10月上旬の現地調査ともに発病は確認されていない。
- イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並～少ないと予想されており、本病の発生が認められるようになると考えられる。

3 【腐敗病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 10月下旬の予察圃場では発病は確認されていないが、10月上旬の現地調査では一部の圃場で発生が確認されている。
- イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並～少ないと予想されており、本病は平年並に発生すると考えられる。

4 【ビッグベイン病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 10月下旬の予察圃場、10月上旬の現地調査ともに発病は確認されていない。
- イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並～少ないと予想されている。しかしながら、本年産春レタスでは発生は平年並であり、本病は土壌病害であること、本病を媒介する *Olpidium* 菌が圃場内に一定量存在することが考えられ、平年並に発生すると考えられる。

イチゴ

1 【灰色かび病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 10月上旬の現地調査では発病は確認されていない。
- イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並～少ないと予想されており、本病の発生が認められるようになると考えられる。

2 【うどんこ病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 10月上旬の現地調査では発病は確認されていない。
- イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は平年並～少ないと予想されており、本病の発生が認められるようになると考えられる。

3 【アブラムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
- (2) 予報の根拠
- ア 10月上旬の現地調査では発生株率26%(平年値 0%)とやや多い発生であった。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、やや多い発生が続くと考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 薬剤散布を行う場合は、薬液が葉裏や未展開葉のすき間に届くように行うこと。

イ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。
病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

4 【ハダニ類】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の現地調査では発生株率2%（平年値25.3%）、発生圃場率25%（同66.7%）とやや少ない発生であった。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、施設内ではハダニ類に好適な条件となることから、増殖が進むと考えられる。

5 【ハスモンヨトウ】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 10月上旬の現地調査では発生株率35%（平年値10%）、発生圃場率100%（同75%）とやや多い発生であった。

イ 今後、野外からの飛び込みは減少するものの、1か月予報によると、気温は平年より高いとされており、本種に好適な条件であることから、やや多い発生が続くと考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 卵塊や集団でいる若齢幼虫を見つけたらすみやかに捕殺する。

イ 薬剤散布を行う場合は、薬液が株全体にかかるように行うこと。

ウ 中齢以降の幼虫には、薬剤の効果が低くなるので、早期発見に努め、若齢幼虫期の防除を徹底する。

エ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を守ること。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載

<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>